

末広防犯会（鳥取県）

活動地域

鳥取県を少し紹介します。自然が豊かで食べ物が美味しくとても暮らしやすい所です。全国の47都道府県ランキングを検索しますと、鳥取県は面積では41位、人口は一番少なくて47位、これは約58万人ですね。そして幸せ総合度は、嬉しいことに4位です。

きょうのテーマに関係しますが、刑法犯の認知件数は少ないランキングでは3位で、平成21年の発生件数は5,845件、1日平均16件あります。それで全国の年間件数は、170万件あります。1日平均4,666件です。私がしゃべっている間にも1時間に194件という驚くべき件数なんです。この件数は氷山の一角で実際はもっと多くあると思われ、国内で毎日のように凶悪な事件が発生している事もなんとなくうなずけるような気がします。

それではこれから、お手元にお配りした末広防犯会の冊子を元に話します。よろしくお願いいたします。



団体の概要

多くの人が理想とする町は、誰もが住み続けたい町です。それは、毎日の暮らしの中に便利で楽しいプラスになるものが多く、犯罪や災害のようなマイナスになるものが少ない町です。マイナスを少なくする活動には、その多くが地域ボランティアの協力を必要とします。私たちの防犯活動は犯罪というマイナスを少なくする活動でございます。

末広防犯会の概要について説明します。目的は安全と安心なまちづくりで、住民の皆様が防犯に関心を持つことから始まります。関心を持つとは「関わる心を持つ」ことで、多くの人が防犯に関わる心を持つには何をすれば良いか。簡単なようで難しい課題だと思います。

防犯情報の収集と発信について、収集と発信は自主防犯活動の基本ではありますが、発信さえすれば全てよしというものではありません

誰もが住み続けたい町
とは・・・

暮らしの中に、プラスになるものを、多くする活動
暮らしの中に、マイナスになるものを、少なくする活動
など

犯罪というマイナスを少なくする
防犯活動に深く関わっている



2

末広防犯会の概要

目的 「安全で安心な町づくり」
住民の皆さんに、防犯に関心を持ってもらうこと

情報発信 防犯活動を有効にするためには、
情報を受ける住民の皆さんが吸収しやすい情報発信
が必要

衆人環視 犯罪者が恐れることは、防犯意識の高い地域住民の
目・耳・口・足と連携
した警察の取り締まり。

高い防犯意識を持った町民は犯罪者にとって最大の脅威

3

せん。犯罪が少ない地域では、防犯に無関心な人もおります。防犯情報を有効に活用するためには、多くの住民が吸収しやすい情報発信が必要です。この「衆人環視」について話しますと、地域の様子はそこに暮らす人が詳しく知っています。多くの住民が、日常生活の目線で常に治安の状況を監視し、問題があれば早く警察に連絡し取り締まりによって犯罪の発生を防止すれば、生活環境の改善ができます。犯罪者が恐れることは、防犯意識の高い地域住民の目、耳、口、足と連携した警察の取締りです。それこそ犯罪者が最も恐れ嫌がる町で、そこに犯罪のない安全な町、安心して暮らせる町が生まれます。防犯活動も何かあれば警察に連絡して、生活環境を良くする活動です。犯罪者を捕まえたりする危険なことはないのですが、防犯活動は危険という思い違いが参加しにくい原因の一つにもなっていると思います。

活動の概要

主な活動内容には、鳥取駅前交番勤務員と住民の話合い、防犯パトロール、広報活動、そして子供たちの防犯教室があります。

鳥取駅前交番との話合いは、防犯パトロールの詰所で行います。初めに警察官から管内の犯罪や子供への声掛け事案などの話を聞き、次に住民から取締りの要請等をします。

ところで皆さんは次のような話を聞かれたことはないでしょうか。交番に行き、取締りを要請すると、状況説明等に長時間かかかため、小さな要件で交番に行くことをためらう人がいるというような話です。その点、詰所での取締り要請は話しやすく、パトロールの時に現地で詳しい説明ができ、小さな事でも相談しやすい雰囲気があります。小さな犯罪の放置が大きな犯罪につながることもあり、初期段階での解決は犯罪被害防止の第一歩です。

これまでの要請事例としては、通学の時間帯に犬を放し飼いにする危険行為、通学路に自動車を駐車する危険行為、高齢者宅前に毎朝ゴミを捨てる迷惑行為などがありました。これらの要請は、駅前交番から当事者に注意して解決しました。

防犯パトロールについて話しますと、人数は約 25 人ほどいますが、自由参加ですので毎回 10 人から 15 人くらいが参加します。交番からは毎回 2 人から 4 人。主な目的は、住人、観光客等、通行人の安全・安心のために、違法営業の抑止、不審者の探索、危険箇所の点検等を行います。通行人の多い金曜日の午後 8 時から約 50 分間町内を一周します。

主な活動	
○ 交番員との話し合い	鳥取駅前交番勤務員と地域住民との対話（情報交換） 防犯会の詰所での要請と話し合い
○ 防犯パトロール	毎月 1 回の繁華街パトロール（街が賑わう金曜日に実施） 危険箇所の点検、違法営業の抑止
○ 防犯教室	年に 2 回、児童への防犯教室（鳥取警察署員に講師を依頼） 親も同席することで、家族での話し合いの機会に
○ 広報活動	警察、学校など公の防犯情報を活用した広報 新聞記事も活用したチラシを作成して呼び掛け

交番員との話し合い

防犯会の詰所で警察官と話し合いの場を設けることで、交番や警察官に対する敷居を低くすることも目的としている。

参加者全員が、話し合いの話題について共通理解できる場を設ける。

ポイント

- 月に 1 度、定期的に行う。
- 話し合いで聞いた話は、回覧ロコミを使い分けて広報する。
- 小さな犯罪を放置させずに問題意識を持つ。

防犯パトロール

警察官と地域住民による官民合同夜間パトロール



平成24年市役所の広報紙に活動が紹介されました。

パトロールの様子

利点

- ・ともに行動することによる防犯意識
- ・異世代交流との観望
- ・通行人への啓発活動

パトロールには次のような利点があります。防犯意識を高めることができます。町内の異世代との交流になります。警察官と住民の防犯パトロールなので目立ち、通行人が防犯活動に関心を持ちます。そして、警察と住民の間にある、俗に言う「敷居の高さ」が低くなるように思います。

防犯教室とあいさつ交流

防犯教室

小学生でも“犯罪から自分の身を守る”大切さを学ぶことで、卒業しても被害に遭わないための取り組み。




あいさつ交流

子どもたちが大人になり、親になった時に、「安全で安心な町づくり」活動に貢献することを期待

次に子供の防犯教室について説明します。子供の防犯教室は、自分の身は自分で守ることの大切さを指導するのが目的で、毎年3月と7月に実施します。3月は安全・安心な登下校について話をします。7月には夏休みの交通安全と防犯をテーマにします。近くの町内からの参加もあり、多くの子供たちとその保護者が揃って防犯の話を聞くことは、親子の防犯意識が高まると思います。

子供の防犯対策には二つの対策があると考えています。一つは、大人が子供を外から守る防犯の環境対策で、大人が子供を見守る活動や、犯罪が発生しやすい公園の対策整備等があります。二つめは、子供が自分の身は自分で守る自己防衛対策で、防犯教室とか地域安全マップ作り等があり、子供の時から自分の身は自分で守る話を数多く聞いたり体験をしたりして、自己防衛意識を高めます。この体験は大人になっても非常に役に立つと思います。今後はこの二つの対策を切り離し、同等に進める必要があると思います。

広報活動



情報収集の方法

- ①警察、学校などからの防犯情報
- ②公のチラシ(振り込め詐欺、薬物乱用防止)
- ③新聞記事(殺人、強盗傷害など重大事件)
- ④新聞に載らない近隣の身近な犯罪など
- ⑤インターネットの活用

○多くの地域に
○隔々の住民まで知れ渡る活動を
○迅速に行うことが出来る
○自主防犯活動
が必要

広報活動については、基本的に毎月2回の防犯パトロールのお知らせの中に、防犯情報を載せています。防犯情報の内容は、駅前交番の話、新聞記事、小学校からの不審者情報、警察本部の防犯情報等を参考にしています。

広報チラシについて次のようなことがありました。振り込め詐欺を企てる者から送られたと思われるはがきを受け取り、交番にこのはがき

を回覧しても良いかどうかを相談しました。交番からは、一部分を削除し発信者が特定できないように1文を削除した後、回覧に付しました。このように少しでも気になることがあれば、警察に相談したら良いと思います。

自主防犯活動の必要性については、まず犯罪の広域化によって多くの地域に防犯活動が必要です。次いで、多種多様な犯罪に対応できる防犯活動が必要です。犯罪のスピード化によって、迅速に対応できる防犯活動が必要です。まとめて言えば、多くの地域に多種多

様な犯罪に対応できる防犯活動を、迅速に行うことができる自主防犯活動が必要であるということになります。

次に、官民連携、防犯情報の共有について考えますと、自主防犯活動は、多くの情報を持つ警察と地域の状況に詳しい住民の連携によって犯罪の撲滅に効果が発揮されます。木を見て森を見ず、森を見て木を見ずの言葉があります。防犯活動では森は警察であり、木は住民で、それぞれの守備分野を生かし有効に活用すればより強い防犯体制ができます。それらに欠かせないものが官民の連携であり、防犯情報の共有ではないかと考えます。

防犯活動の留意点についてです。活動を続けること、これはまさに継続は力なりです。防犯活動が長続きしない原因として、すぐに効果の現れるものではないことがあげられるでしょう。活動を長期間続けるには、身の丈にあった無理をしない活動が必要です。防犯意識を高めるには、住民が防犯に関する活動に多く触れる機会を多くすることが重要です。

防犯活動の留意点

継続するために
「身の丈に合った無理をしない活動」

防犯意識を高めるために
住民が防犯活動に触れる機会を多くする

活動内容の検討

- 住民の関心のある、参加しやすい活動
- 防犯意識の高揚につながる活動
- 地域に貢献できる活動
- 犯罪者が嫌がる活動

9

活動の内容は、住民に関心があり参加しやすい内容、住民意識の高揚につながる内容、地域に貢献する内容、そして犯罪者が嫌がる内容です。警察と意思疎通を図り情報を共有し、そして警察からの防犯活動への協力要請には可能な限り協力します。

心を育てる子育て教育です。子供たちが犯罪の被害者、ましてや加害者にならないようにする最も良い方法は、われわれ親が防犯の認識を強く持ち続け、家族ぐるみで防犯意識を高める事だと思えます。

心を育てる子育て教育

江戸時代の長屋文化を一言で言うと
「人と人との関わりの多さ」

江戸時代と現代では、子どもが育つ環境が大きく変わっている
変わらないのが、「親が子に注ぐ愛情」

子どもたちが被害者にも加害者にもならないための方法は……

**親が防犯への認識を高く持ち、
家族で防犯意識を高めること**

10

最後にこここのところ、毎日のように大きな事件が報道されています。親がわが子を殺し、子が親を殺す、そして児童虐待、少しの理由

で人を殺すわけの分からない殺人事件など、今の世の中どうなっているのか、おかしな世の中になっています。犯罪被害防止対策は、自己防衛の充実と防犯環境作りです。各地で頑張っておられる防犯リーダーの皆さん、それぞれの地域で犯罪をなくすように頑張りましょう。ありがとうございました。

質疑応答

●質問 発表の最後に引用しておられた、題目として花と書かれた「咲いた咲いた、心に咲いた、小さな花がたくさん咲いた、防犯の花」というものでありました。これにはどのようなメッセージを込められたのでしょうか？

○回答 いろいろな文章を考えて書いているんですが、短くまとめたのがこれかなと思ひまして、私どもが行っている防犯活動というのはごくごく簡単なので、少しでも参考にさせていただける部分があればなと思ひて、すごく簡単にしております。そしてこの花といいますのは、1本の大きな綺麗な花ではなく、蓮華草とか小さい花がいっぱい咲いている、そのような思ひで作りました。たとえ1カ所が弱っても、全般的にはまだまだ強いというイメージです。